

登録コード	L2910008	開講年度	2026				
担当教員	松本 昇			副担当			
授業科目	新入生ゼミナール（L8）						
英文授業名	Fresher's Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	木曜・5時限
講義室	人文205演習室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ，2021Lカリ，2020Lカリ						
	【2022年度以前カリキュラム対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			⇔	人文学の研究をする上で基本的な情報活用ができるようになる。		
	【2022年度以前カリキュラム対象】領域横断的な事柄に対する問題解決能力および創造的な企画構想能力			⇔	学術的な研究テーマや問いを自ら進んで検討できるようになる。		
	2026Lカリ，2025Lカリ，2024Lカリ，2023Lカリ						
	【2023年度以降カリキュラム対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			⇔	研究対象について人文学的視点から基本的な分析・考察ができるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	多文化協働、キャリア						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	受講生は授業の達成目標に沿って自分のテーマを決め、それについて、プレゼンテーションおよびレポート作成を行い、以下の諸項目を実地に学んでいく（順不同）。 1）資料・文献の初歩的分析方法 2）資料・文献の検索・収集法 3）基本的な情報通信技術と情報倫理 4）効果的なプレゼンテーションの仕方 5）論理的な議論の進め方 6）プレゼンテーションの実践 7）論理的な文章の書き方と学問のルール 8）レポート・学術論文のルールと書き方 9）研究計画の立て方と進路決定の考え方						
授業計画	上記「授業の概要」で述べられている内容にしたがって、以下のように進行する。具体的な進め方は教員・オンデマンド授業の予定によって若干異なる場合がある。 第1週 ガイダンス（各教室，対面） 第2週 アカデミック・スキルズ、ノート・テイキング、情報収集の基礎（各教室，対面） 第3週 情報活用教育（オンデマンド） 第4週 図書館ガイダンス（図書館，対面） 第5週 クリティカル・リーディング、情報整理（各教室，対面） 第6週 情報セキュリティガイダンス（オンデマンド） 第7週 研究成果の発表、論文・レポートをまとめる（各教室、対面，以下第15週まで同様） 第8週 プロポーザル（構想）発表 1/2 第9週 プロポーザル（構想）発表 2/2 第10週 プレゼンテーションの実践 1/6 第11週 プレゼンテーションの実践 2/6 第12週 プレゼンテーションの実践 3/6 第13週 プレゼンテーションの実践 4/6 第14週 プレゼンテーションの実践 5/6 第15週 プレゼンテーションの実践 6/6 + 授業アンケート						
成績評価の方法	ディスカッションなど授業内での貢献度（20点）、プレゼンテーション（40点）、最終レポート（40点）で成績評価を行う。						
成績評価の基準	(1) 授業の趣旨をきちんと理解し、積極的かつ適切にアクティビティに参加していたか（20点）、(2) プレゼンテーションの実践が適切かつ建設的に行われていたか（40点）、(3) 提出されたレポートの内容が正確かつ意欲的なものであったか（40点）という評価項目の合計点が、90点以上である場合を「卓越している」(秀/S)、80点以上90点未満である場合を「かなり上にある」(優/A)、70点以上80点未満である場合を「やや上にある」(良/B)、60点以上70点未満である場合を「水準にある」(可/C) と評価する。						
事前事後学習の内容	自分のプレゼンテーションの準備を事前に入念に行うことは言うまでもなく、教員の講義や他学生のプレゼンテーションで扱われた事項についても、授業後に自分で調査・確認してみる。また、教員の指示に従って、教科書等の内容を自習・習得すること。						
履修上の注意	・人文学部でのあらゆる教育の基礎を形成する授業であることをよく認識し、必ず1年次に履修すること。また、不測の事態や特段の事情がない限り毎回出席することとする。						

履修上の注意	・生成AIの利用について 本授業では生成系AI（ChatGPT等）の利用を禁止しない。ただし、「思考の代行」としてではなく、「学習補助」としての利用に限定する。具体的には、文章の推敲、文献・事例の探索等に用いるにとどめ、自分の主張の核（問い、立場、論証）は必ず自分の頭をつかって構築すること。また、AIが提示した参考文献や知見には誤りが含まれる可能性がある。したがって、レポート等で論拠として挙げる文献については、AIの要約や二次情報のみに依拠せず、必ず原典（一次資料）を自分で入手して通読し、内容を理解した資料のみ引用・参照を認める。その上で、生成系AIを利用した場合は、利用箇所・用途を明記すること。以上（主張の中核を自ら構築すること、原典確認、利用箇所・用途の明記等）を満たさないまま提出したことが確認された場合、減点の対象、または不正行為として取り扱う場合がある。
質問、相談への対応	オフィスアワーは原則火曜日の昼休みとしますが、直接研究室を訪問せず、事前にメールで連絡してください。それ以外の時間はメールやZoom等を用いオンラインで対応します（メールアドレスは人文学部履修案内に掲載）。
教科書	佐藤望編著、2026、『アカデミック・スキルズ 第4版—AI時代の知的技法入門』慶應義塾大学出版会、ISBN:978-4-7664-3087-5(4-7664-3087-5), 1,320円
参考書	